

科目名	対位法概論	授業期間	通 年
担当教員	照屋正樹	科目No.	CMT2106
受講対象	作曲「芸術音楽コース」、コンポーザー＝ピアニストコースを除く 全専攻 2～4年	単位数	2単位

目 標 ／ 概 要	<p>和声法は音の「垂直」に関する音楽理論である。それに対し、対位法は「水平」、即ち旋律に関する理論であり、西洋音楽の分析や理解に欠かせない必須の知識である。具体的には定旋律に対しその上部と下部に対旋律を作成する演習を行い、旋律に対する感性を養う。</p> <p>また、対位法の様々な技法を学び、更に簡単な対位法的楽曲の分析を上記課題演習と平行して講義する。</p>
-----------------	---

授 業 計 画	春 学 期					
	1	予備知識（対位法の歴史・二声対位法の書式・定旋律と対旋律など）				
	2	全音符対旋律1) 冒頭・旋律動向と和声動向・結尾				
	3	全音符対旋律2) 実習				
	4	二分音符対旋律1) 冒頭・強拍（協和音程）・弱拍（経過音・刺繍音・和音構成音）について				
	5	二分音符対旋律2) 旋律動向と和声動向・結尾				
	6	二分音符対旋律3) 実習第1回				
	7	二分音符対旋律4) 実習第2回、及び対位法用語（転回可能対位法、模倣、カノン等）の解説				
	8	二分音符対旋律5) 実習第3回、及びバッハ「音楽の捧げもの」より「各種カノン」の分析				
	9	四分音符対旋律1) 冒頭・強拍（協和音程）・弱拍（経過音・刺繍音・和音構成音）について				
	10	四分音符対旋律2) 旋律動向と和声動向・結尾				
	11	四分音符対旋律3) 実習第1回				
	12	四分音符対旋律4) 実習第2回、及びバッハ「インヴェンション」の分析1)（第1番、第2番）				
	13	四分音符対旋律5) 実習第3回、及びバッハ「インヴェンション」の分析2)（第6番、第9番）				
	14	四分音符対旋律6) 実習第4回、及びバッハ「インヴェンション」の分析3)（第11番、第12番、第14番）				
	15	総括				
	秋 学 期					
	1	春学期復習（二分音符対旋律、四分音符対旋律）				
	2	移勢対旋律1) 掛留について				
	3	移勢対旋律2) 冒頭・強拍（掛留・和音構成音）について・弱拍（和音構成音）について・結尾				
	4	移勢対旋律3) 実習第1回				
	5	移勢対旋律4) 実習第2回、及びバッハ「シンフォニア」の分析1)（第1番、第2番、第8番）				
	6	移勢対旋律5) 実習第3回、及びバッハ「シンフォニア」の分析2)（第9番、第14番）				
	7	華麗対旋律1) 冒頭について・強拍（掛留・移勢された和音構成音）について				
	8	華麗対旋律2) 掛留の装飾解決について・弱拍についての諸注意				
	9	華麗対旋律3) 旋律動向（リズムに関する注意）・和声動向・結尾				
	10	華麗対旋律4) 実習第1回、及びフーガ用語の解説				
	11	華麗対旋律5) 実習第2回、及びフーガ解析				
	12	華麗対旋律6) 実習第3回、及びバッハ「平均律クラヴィーア曲集第1巻」よりフーガの分析1)（ト短調、変ロ長調）				
	13	華麗対旋律7) 実習第4回、及びバッハ「平均律クラヴィーア曲集第1巻」よりフーガの分析2)（嬰ハ短調）				
14	バッハ「平均律クラヴィーア曲集第1巻」よりフーガの分析3)（嬰ニ短調）、及び総括					
15	理解度の確認（テスト及び講評）					

準備学習の内容	和声学同様、課題の実施を伴う授業である。講義の聴取と共に、各自課題の実施を怠らないこと。					
履修上の注意	遅刻は授業開始時より30分後までとし、それ以降の入室は原則として出席と認めない。また、遅刻3回を欠席1回にカウントする。					
評価方法	試 験	課題(レポート含)	発 表	平常点	その他	合 計
	○			○		
	補 足					
教材等	教科書は使用しない 参考書：厳格対位法（山口博史著・音楽之友社）					